

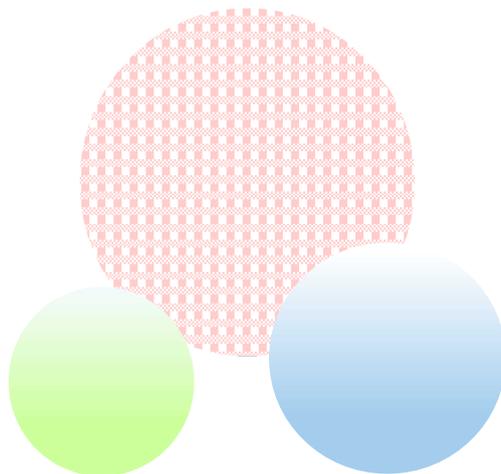
第2期

府中市教育振興基本計画

【令和5年度～令和9年度】

豊かな人生とよりよい社会を創造するために

自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育む



府中市教育委員会

■はじめに

教育は、今変革の時期を迎えています。

我が国の将来を展望したとき、教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、豊かな人生とよりよい社会の持続的な発展に向けて極めて重要な役割を有しています。

これからの教育の目標は、

- ・全ての子どもたちが社会に出た時によりよく生きていけるようにすること、
- ・社会全体、人類全体が持続可能な方向で、よりよい社会をつくっていくこと、

であり、全ての人が自分らしく幸せを感じられる人生やよりよい社会を創造・実現していくためには、自律して生きていく力を備えた人づくりとして、自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育むことが重要です。

それを実現していくためには、一人一人の資質・能力を高めていくとともに自ら考え行動できる力を付け、他者とのコミュニケーションを通じて協働し、問題を解決していく教育機会を増やしていく必要があります。

また、家庭や地域、学校、社会教育施設が連携を図りながらふるさとに誇りや愛着をもち、生涯にわたって、教養を高め、学びを通じて地域や社会と関わり続けることが重要となります。

このたび、「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育む～生涯学び続けるひとづくり 先進教育のまち 府中の実現～」を基本理念として、令和5年度から令和9年度までの本市教育の方向性を示す府中市教育振興基本計画及び教育大綱を策定しました。基本理念を軸に常にこれに立ち返り、取組みを推進してまいります。

また、豊かな学びを生涯続けることにより、全ての市民一人一人が成長し、思いやりあふれる豊かな心や、健やかな体を育むことで、自らの豊かな人生の創造につながります。

そうした人づくりは、人を育てることにとどまらず、成長した人が地域を担い、支え、世代を超えて地域や社会の形成に参画し、地域全体が人を育むという好循環を生み出し、しあわせを実感できるまちづくりに広がりを持つものと見通しています。

結びに、本市が目指す教育の実現に向け、市民の皆様と一体となって全力で取り組んでまいります。今後とも、皆様の御理解と御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

府中市教育委員会

目 次

第1章 府中市教育振興基本計画の策定について	
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画の期間	2
4 計画の対象範囲	2
5 計画の進捗管理	2
第2章 本市の教育をめぐる現状と課題	
1 教育を取り巻く社会情勢	3
2 これまでの取組状況と課題	6
近年の府中市の施策体系	7
点検及び評価	8
第3章 計画の基本理念と方針、施策の方向性	
1 基本理念	11
2 将来を見据えた目指す姿	11
3 施策の方向性	12
4 施策体系	13
第4章 計画で取り組む施策	
基本目標1 府中市の特色を生かした学びの継承（発展）	
基本施策1 地域・学校等間連携・協働による府中市教育の一体的発展	
取組項目(1) 小中一貫教育の質的向上・幼保小接続の推進	15
取組項目(2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	16
取組項目(3) 部活動改革の推進	16
基本施策2 郷土の歴史と伝統・文化の継承とひとやまの魅力向上	
取組項目(1) 備後国府跡の保存・活用事業の推進	17
取組項目(2) 指定文化財等の価値の保護と魅力を活かした活用事業の展開	17
取組項目(3) 地域文化財の総合的把握と文化財マスタープランの作成	17
基本目標2 誰一人取り残さず、全ての子どもの可能性を引き出す学びの推進	

基本施策1 安心・安全な学びの機会の保障

取組項目(1) いじめの未然防止・対策のための生徒指導体制の充実	18
取組項目(2) 不登校児童生徒への支援の充実	18
取組項目(3) 特別支援教育等の充実	18
取組項目(4) 教育相談機能の充実	19
取組項目(5) 防災教育の推進	19

基本施策2 確かな学力と幅広い知識と教養・職業実践力の育成

取組項目(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	20
取組項目(2) 言語能力を育成することば探究科の推進	20
取組項目(3) デジタル機器の効果的な活用（GIGA スクール構想）	20
取組項目(4) キャリア教育の充実	21
取組項目(5) 外国語教育の充実	21

基本施策3 豊かな心と健やかな身体の育成

取組項目(1) 体験活動の充実	22
取組項目(2) 道徳教育の充実	22
取組項目(3) 読書活動の充実	22
取組項目(4) 学校体育の充実、運動・スポーツとの多様な関わり方の重視	23
取組項目(5) 生活習慣の改善・食育の推進	23

基本施策4 教育環境の整備

取組項目(1) 教師の指導力向上	24
取組項目(2) 学校における働き方改革の更なる推進	24
取組項目(3) 学校施設の整備	25

基本目標3 生涯を通じて共に学び支え合い、地域づくりに生かす学びの向上

基本施策1 生涯学び、活躍できる環境の整備

取組項目(1) 多様な機関との連携による地域の教育力向上	27
取組項目(2) 公民館等の機能強化・充実	27
取組項目(3) 地域の学びに資する教育環境の整備	28
取組項目(4) 関係機関との連携	28

参考資料

1 策定の経過	29
2 用語解説	29

第1章 府中市教育振興基本計画の策定について

1 計画策定の趣旨

本市では、平成25年3月に今後10年を見通した教育の振興のための基本計画として、府中市教育推進計画である「府中学びプラン」(平成25年～令和4年度)(以下「前計画」という。)を策定し、平成27年度に一部改訂を行い、「未来へはばたくひとつづくり 生涯にわたって学びあえるまち府中」をテーマに、様々な施策に取り組んできました。

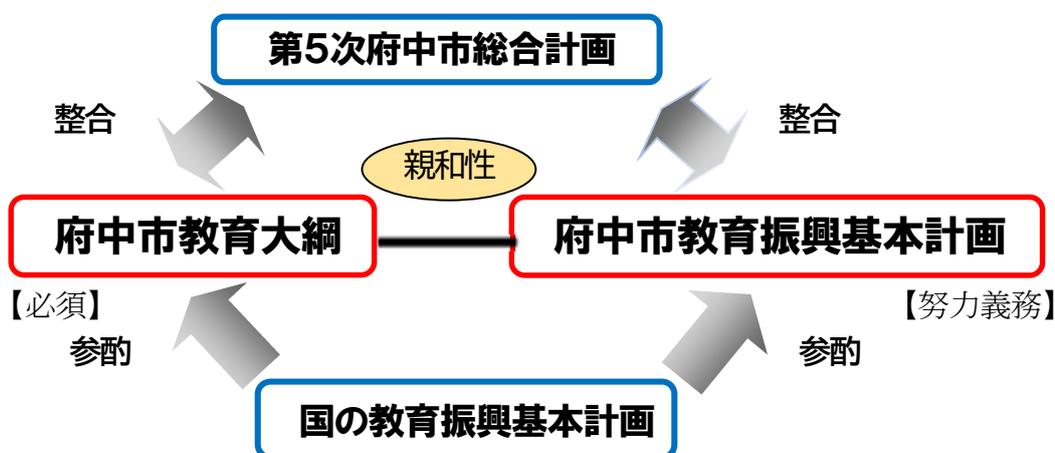
この間、少子高齢化やグローバル化、ICTをはじめとする様々な分野での技術革新など、社会情勢の急速な変化が生じ、将来の予測が困難な時代となってきています。こうした中、教育行政においても子供たちの主体的な学びの推進を図りながら、社会の激しい変化に対応し、生きる力・課題を発見し解決する力を育むことが求められています。

計画期間が令和4年度で終了することに伴い、これまでの取り組みや現在の社会情勢、国の動向等を踏まえ、これから本市が進める教育の基本理念や目指すべき教育の方向性を示すとともに、学校教育と生涯学習が連携を深め、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいくために本計画を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、「教育基本法」第17条第2項の規定に基づく、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画であり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に基づく「府中市教育大綱(令和5年度～令和9年度)」を踏まえて策定しています。

また、本計画は、国の教育振興基本計画を参酌するほか、本市の最上位計画である「第5次府中市総合計画(令和2年度～令和11年度)」と整合性をとるとともに、関連する他の個別計画との整合・連携を図ります。



3 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

4 計画の対象範囲

平成31年4月からの機構改革により、スポーツ、文化部門などが市長部局へ移管となり、各部局において推進計画等を定め取り組んでいることから、本計画は、教育委員会が所掌し施策を実施している学校教育、社会教育及び家庭・地域教育を対象範囲とします。ただし、教育委員会と協働して取り組む市長部局が所管する分野・施策の一部を含みます。

5 計画の進捗管理

本計画の進捗管理は、「**企画(Plan)⇒実施(Do)⇒評価(Check)⇒改善(Action)**」というPDCAサイクルの考え方にに基づき行います。

各年度の取組状況の点検・評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき行うこととし、その結果を次年度以降の施策・事業の改善に生かすとともに効果的な教育行政の推進に努めます。

第2章 本市の教育をめぐる現状と課題

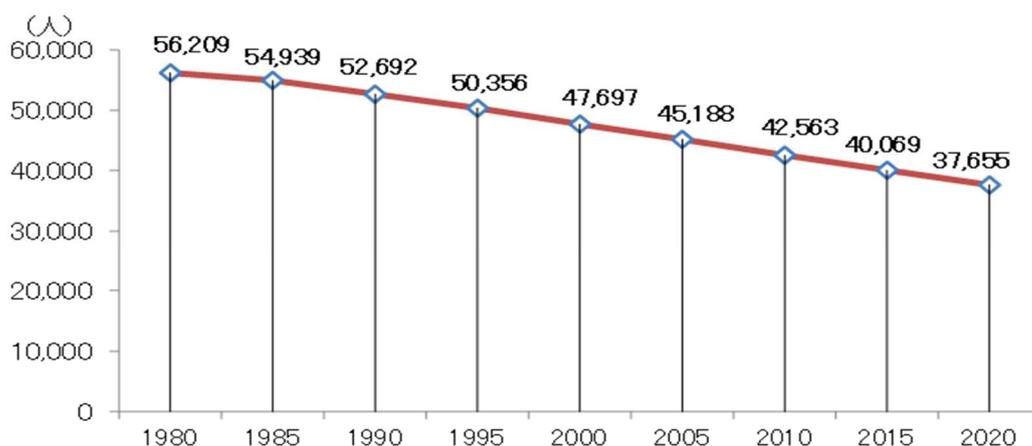
1 教育を取り巻く社会情勢

(1) 人口減少と少子高齢化の進行

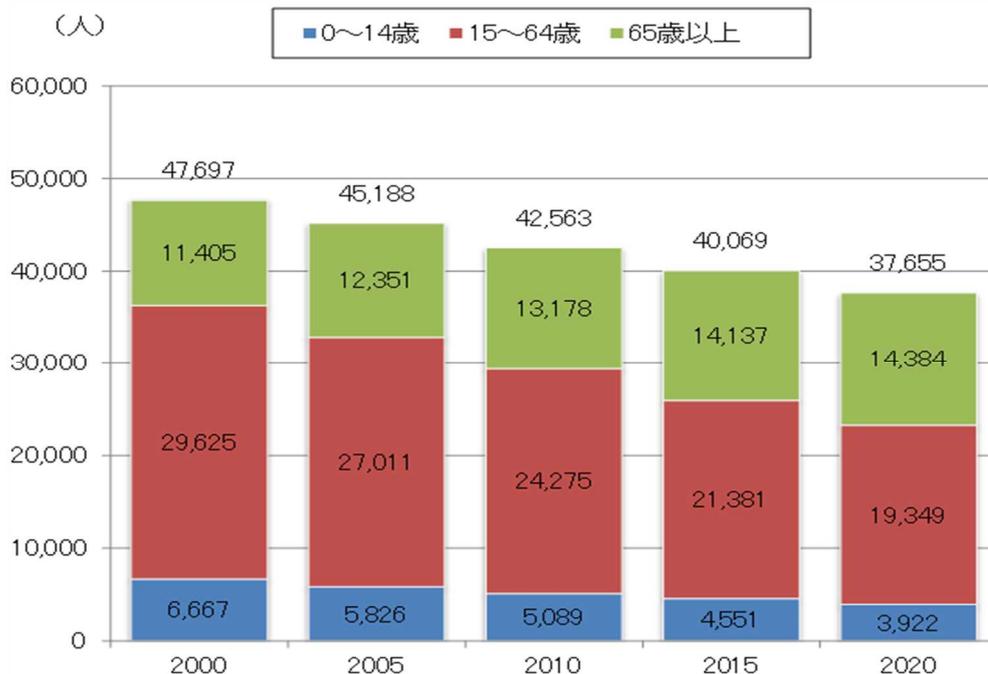
ア 人口の推移

本市の総人口は、減少傾向が続いており、年齢構成別にみると、15歳から64歳の減少が顕著となっており、少子高齢化の傾向が続いています。

【人口の推移（出典：国勢調査）】

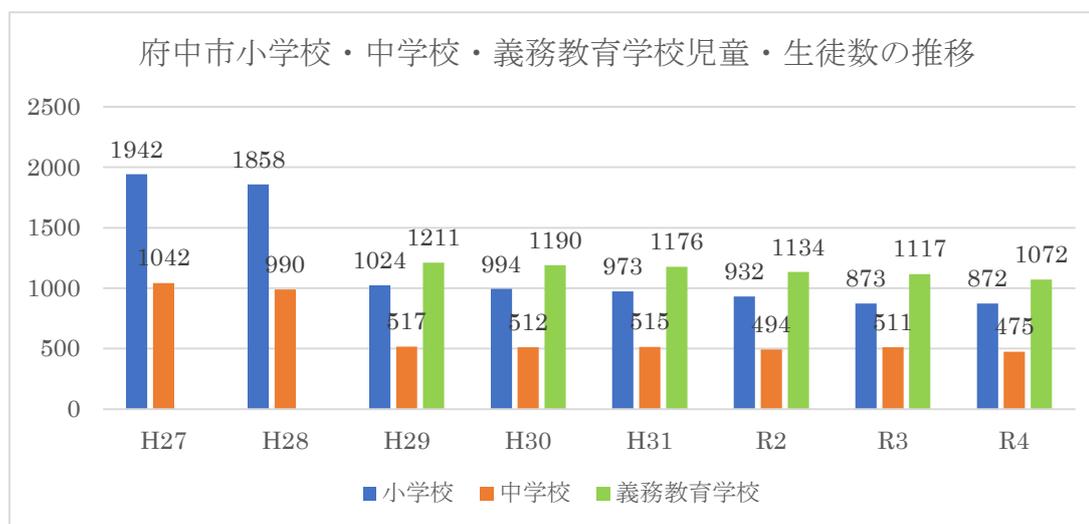


【年齢階層別人口の推移（出典：国勢調査）】



イ 児童生徒数の推移

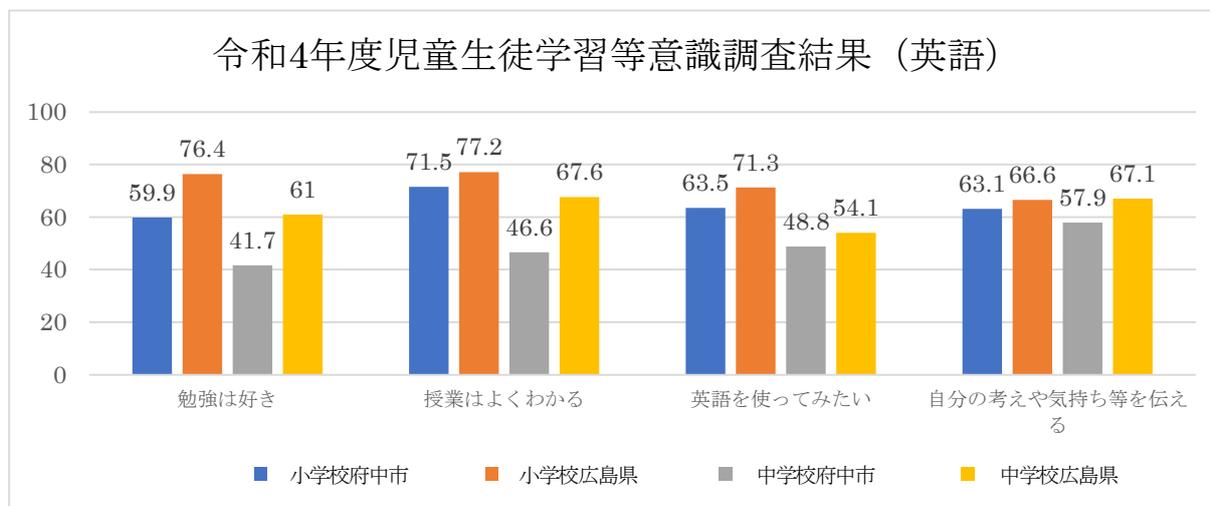
直近10年間の児童生徒数は減少傾向にあり、10年前と比較して約660人減少しています。



(2) グローバル化の進展

グローバル化が一層進展し、多様な文化や考え方がある社会の中では、他者とつながり、協働することで、新しい価値を創造する力が求められています。

広島県児童生徒意識調査において、「英語を使ってみたい」「自分の考えや気持ち等を伝える」質問に対し、県全体と比較して下回っている状況がみられます。「話すこと」「コミュニケーションをとること(伝えること)」に課題のある英語教育を充実させる必要があります。そして、言語や文化が異なる人々との交流・共生していくことができるよう、授業だけでなく学校生活のあらゆる場面で、語学力やコミュニケーション能力、主体性、積極性、異なる文化を理解し尊重することを身に付けることが必要です。



【広島県児童生徒意識調査令和4年度より】

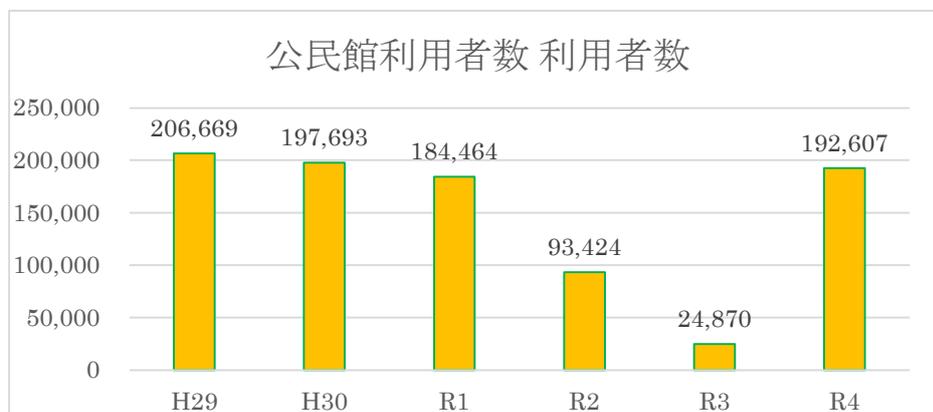
(3) 超スマート社会 (Society5.0) の到来

世界ではIoT、AI（人工知能）、ビッグデータやロボティクス等の先端技術は、人間の頭脳や身体、地理的限界を超えるものであり、これらをあらゆる産業や社会生活に取り入れることで経済の発展と社会的課題の解決を両立する超スマート社会 (Society5.0) の実現を目指しています。その背景には、これまで人間が重要と考えてきた能力はAI・ロボティクスに置き換わるとともに、社会の変化のスピードは想像を超える速さで加速していることにあります。そういう中で、将来を見通し、こうした時代に生き抜く子供たちに必要な資質・能力を育むことが重要です。また、社会自体も持続的に成長していくため、デジタルトランスフォーメーション (DX) に対する積極的な取り組みが求められています。

「令和4年度全国学力・学習状況調査」において、「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」という質問に対して「ほぼ毎日」から「週1回以上」と回答した児童（6年生）の割合は、府中市は63.8%、全国では49.4%、同様の質問に対する生徒（中3）の回答も、府中市では64.7%、全国では43.5%。また、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」という質問には、児童（6年生）の割合は、府中市は65.1%、全国では45.2%、同様の質問に対する生徒（中3）の回答も、府中市では45.9%、全国では35.3%と小中とも全国と比較してポイントが上回っている状況がみられます。これは、1人1台の端末による学習活動が充実しつつあると言えます。ICT活用は、これからの社会を見通し子供が生きていく未来に真剣に向き合うことでもあり、子供たちの主体性、活用力、深い学びへの展開につなげるとともに、教職員の働き方改革にもつながる重要なものとなります。

(4) 人生100年時代の到来

医療体制の充実や医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命が著しく伸長し、人生100年時代の到来が予測されます。人生100年時代において、全ての人がそれぞれの人生を豊かに健やかに生きていくためには、継続的な生涯学習の機会の充実と学びを生かして地域や社会と関わり続けられる環境を整えることが求められています。



【利用者状況報告書より】

(5) 主体的な学びを促す教育活動を通じた自律した人材育成の必要性

日本財団が令和4年3月に発表した18歳意識調査において、自身と社会のかかわりについて、「自分は大人だと思う」「自身の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割に満たず、他の国と比べても極端に低い状況が見られます。これは、社会との関わりが極めて低く、また、自律した人を育てられていないことを示すものです。この課題を克服するためにも、自分で思考し、判断し、表現する機会を増やし、自律していく力を育てることが急務です。

子供たちが自ら課題を見付け、その解決を目指し、様々な知識や情報を組み合わせ、新たな価値を創造する力、多様な他者への理解を深め協働・協調できる力などこれから求められる資質・能力を身に付けていくことが必要です。

また、これからの持続可能な社会の発展を生み出していくためには、主体的に社会形成に参画し、生涯にわたって学び続ける基盤を培うことができる人材育成が重要です。

(6) 子供の多様性への対応

学校には、様々な才能をもつ子供や特別な支援を必要とする子供など多様な個性や背景がある児童生徒が在籍しています。子供たち一人一人の多様な個性を伸ばしていくためには、一斉指導を前提とするカリキュラムだけでなく、相手の多様性を認め、高め合い、子供の視点に立ち、個々の子供の学習進度や能力に応じたきめ細やかな指導の充実、多様な才能・能力を生かす教育を行っていくことが求められています。

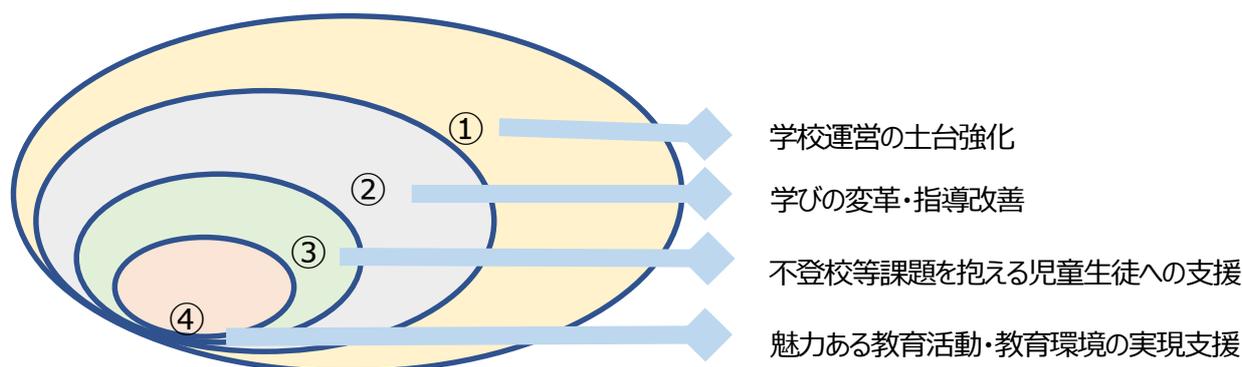
(7) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

2015年に国連サミットにおいて採択されたSDGsは「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会及び環境をめぐる広範囲な課題に対して、統合的に取り組むこととしています。教育の分野においては、SDGsの17の目標のうち、主に「4 質の高い教育をみんなに」の達成に貢献することを目指し、全ての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育の確保、生涯学習の機会の充実が求められています。

2 これまでの取組み状況と課題

本市の近年の施策体系とともに、府中市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、前計画の取組みについて、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、毎年度の点検及び評価の結果をもとに、主な取組みの実績と課題をまとめました。

<近年の府中市の施策体系>



学校運営の土台強化

コミュニティ・スクール（CS）

- ・全市立学校の CS 制度の導入
- ・学校・家庭・地域協働による「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・持続的な学校運営の実現
- ・CS カフェ

教育相談体制の強化

- ・SC、SSW、SG、特別支援教育支援員をはじめとした専門人材の活用におけるセーフティネットの充実
- ・予防的見守り支援体制の構築
- ・匿名相談アプリの導入

働き方改革

- ・働き方改革取組み方針
- ・統合型校務支援システムの運用を含めた校務 DX の充実
- ・給食公会計化
- ・部活動の地域移行の検討

学びの変革・指導改善

指導改善

- ・教育課程研究センターによるエビデンスに基づいた教育指導・評価研究
- ・府中市版学力調査
- ・研究指定の充実、・研修会の充実
- ・公開研究 ・学校訪問

小中一貫教育

- ・全市立学校の小中一貫教育制度導入
- ・独自教科「ことば探究科」の開設
- ・教科担任制の導入
- ・幼保小連携、中高連携

GIGA スクール構想

- ・LTE 内蔵端末を活用した、学校に閉じない学びの充実
- ・指導者用デジタル教科書の活用
- ・AI ドリル活用による個別最適化した学び支援
- ・プログラミング教育の充実、
- ・ICT 支援員の活用

不登校等課題を抱える児童生徒への支援

学習支援・居場所づくり

- ・教育支援センターとの連携による多様な学び・生活等支援
- ・校内スペシャルサポートルームの開設（SSR）
- ・スクールカウンセラー等の専門人材による支援

魅力ある教育活動・教育環境の実現

教育活動・教育環境の充実

- ・電子図書館の充実
- ・企業連携による校内軽食ブースの設置
- ・グローバル教育の充実（ALT の拡充）
- ・課題解決型キャリア体験学習

- ・放課後ラーニングサポート事業の開始
- ・通学路安全プログラムの実施
- ・府中学びフェスタ
- ・史跡備後国府跡の発掘調査・活用

- ・公民館を始めとした社会教育施設の ICT 環境整備
- ・全普通教室、特別教室の空調整備
- ・親の力をまなびあう学習プログラム（親プロ）
- ・I-project meeting（志の教育推進事業）

＜点検及び評価＞

政策の柱Ⅰ 小中一貫教育を推進し、志を高く持ち、たくましく生き抜く力の養成

- (1) 知・徳・体のバランスの取れた府中っ子の育成
- (2) 夢や志を育み、社会を生き抜く力の育成
- (3) 魅力ある学校づくり

ア 具体的な取組み実績

- ・新たな小中一貫教育制度の導入を行い、義務教育学校、併設型小中学校に移行し、「教育課程の特例」を活用できる教育環境の整備を行いました。
- ・「教育課程の特例」を活用して、府中市の子供の学力状況に寄り添い、府中市の人づくりに資する「小中一貫教育カリキュラム」を作成し、実践してきました。
- ・コミュニティ内の企業と協働したキャリア体験学習の実践や、地域教育資源を学校のカリキュラムに反映させた「社会に開かれた教育課程の実践」を展開しました。
- ・新しい時代を生きるための「ことば探究科」カリキュラム開発事業を進め、「府中市教育課程研究センター」を設置し、「ことば探究科」の実践事例や成果のまとめを発信しました。またプロジェクトリーダーを中心に実践に基づいた校内研修を実践してきました。
- ・令和2年度に市内学校児童生徒へ1人1台のタブレットを配置し、効果的に活用することで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができる環境を整備しました。

イ 今後の課題

- ・小中一貫教育の新教科「ことば探究科」のカリキュラムが完成し、授業研修等を行っていますが、研修の量・質を市全体として高めていく必要があります。今後、各校の研修をリードすることのできるリーダーを更に育成し、全ての教師が質の高い指導をできるようにする必要があります。
- ・児童生徒の資質・能力を着実に育成するために、教育データに基づいた学習活動の設定や、体験的に学ぶことのできる学びを更に展開する必要があります。
- ・コミュニティ・スクールを基盤とした「社会に開かれた教育課程」のより一層の充実を図り、持続可能な教育環境を構築する必要があります。

政策の柱Ⅱ 伝統と文化を継承し、未来を拓く、きらめく人材の養成

- (1) 郷土の歴史を学び、伝統と文化を継承
- (2) 豊かな心を育む芸術文化活動の推進

ア 具体的な取組み実績

- ・貴重な歴史的建造物の文化的価値付けを行い、文化的な豊かさを保存して価値向上を図り、文化観光資源としてのまちづくりへの活用と賑わいづくりにつなげてきました。

- ・ICT教育等と協働した地域学習の創出、学校との連携を図ってきました。
- イ 今後の課題
- ・普及啓発事業や整備事業を地域・学校と連携することにより、将来にわたる地域文化財の保存・継承を推進する必要があります。

政策の柱Ⅲ 学びあえる地域社会の形成

- (1) 家庭教育力の強化・充実
- (2) 学校・家庭・地域等の連携の強化・充実
- (3) 魅力あふれる生涯学習環境の整備
- (4) 市民が誇りをもてる教育のまちづくりの推進

ア 具体的な取組実績

- ・令和元年度に学校運営協議会の全校設置が完了し、コミュニティ・スクール活動に関し、全国スケールで一定の評価を得ることができました。
- ・指定校及び研究指定校における特色ある取組みにより学校が地域のコミュニティの学びの拠点となり、「どのような子供を育てたいか」といった地域の熟議による教育環境を創出、充実させました。
- ・放課後の学びの場所・学習サポートルーム事業としてわくわく子ども教室を実施・充実させました。
- ・公民館に求められる地域をコーディネートする役割を学び、実践することで社会教育の充実を図りました。

イ 今後の課題

- ・集う・学ぶ・結ぶという公民館機能を発揮できるよう地域のコーディネーター力の向上を高める必要があります。
- ・「小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール（CS）」と連動した、地域人材の活躍や地域での課題に取り組む体制の広がり、より一層の地域学校協働活動の推進が必要です。

政策の柱Ⅳ 安全・安心な教育環境づくり

- (1) 安全・安心な学校づくり
- (2) 安全・安心な食環境づくり
- (3) 安全・安心で活用しやすい社会教育施設づくり

ア 具体的な取組み実績

- ・屋内運動場屋根塗装工事を実施し、老朽化による雨漏りの改善、学校トイレの改修、空調設備の整備など安全安心な教育環境づくりを推進しました。
- ・臨時的・計画的な施設・機器の修繕と定期的な点検により、安心安全な給食提供のための設備を維持しました。
- ・校内無線LANの整備や大型掲示装置（電子黒板）を設置し、学校のICT環境を充実させました。
- ・市内学校児童生徒1人1台のタブレットを配置し、効果的な活用を推進するこ

とで、児童生徒の学びを広げました。

イ 今後の課題

- ・児童生徒が自らの学びにICT機器を活用する環境を作り、学力の向上に結び付ける必要があります。
- ・施設改修を進め、持続可能な教育環境づくりを推進することが必要です。

第3章 計画の基本理念と方針、施策の方向性

1 基本理念

人々の価値観が大きく変化し、多様化していく中、お互いを認め合い、全ての人が自分らしく幸せを感じられる人生やよりよい社会を創造・実現していくためには、自律して生きていく力を備えた人づくりとして、自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育むことが重要です。

それを実現していくためには、一人一人の資質・能力を高めていくとともに自ら考え行動できる力を付け、他者とのコミュニケーションを通じて協働し、問題を解決していく教育機会を増やしていく必要があります。また、家庭や地域、学校が連携を図りながらふるさとに誇りや愛着をもち、生涯にわたって、教養を高め、学びを通じて地域や社会と関わり続けることが重要です。

加えて、以下に示すとおり、常に子供の視点に立った教育を推進していくことを大切にしていきます。

- ① 児童生徒の「現在の幸せ」を叶える観点として、児童生徒の心情や特性に寄り添った教育を進め、資質・能力の育成や行動変容につながる最適な方策を選択すること、
 - ② 児童生徒がこれからの社会を生き抜くために、児童生徒の「未来の幸せ」を叶える観点として、未来を予測し、その未来で求められる資質・能力の育成につながる教育を創造し推進すること、
- を重視していきます。これらを踏まえ、次のとおり、本市の教育に関する基本理念を定めます。

基本理念

**豊かな人生とよりよい社会を創造するために、
自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育む
～生涯学び続けるひとづくり 先進教育のまち 府中の実現～**

2 将来を見据えた目指す姿

豊かな学びを生涯続けることにより、全ての市民一人一人が成長し、思いやりあふれる豊かな心や、健やかな体を育むことで、自らの豊かな人生の創造につながります。そうした人づくりは、人を育てることにとどまらず、成長した人が地域を担い、支え、世代を超えて地域や社会の形成に参画し、地域全体が人を育むという好循環を生み出し、しあわせを実感できるまちづくりにつながります。

3 施策の方向性

基本目標1 府中市の特色を生かした学びの継承（発展）

施策目標

- 1 地域・学校等間連携・協働による府中市教育の一体的発展
- 2 郷土の歴史を学び、伝統と文化を継承し、ひとやまの魅力向上と継承

基本目標2 誰一人取り残さず、全ての子供の可能性を引き出す学びの推進

施策目標

- 1 安心・安全な学びの機会の保障
- 2 確かな学力と幅広い知識と教養・職業実践力の育成
- 3 豊かな心と健やかな身体の育成
- 4 教育環境の整備

基本目標3 生涯を通じて共に学び支え合い、地域づくりに生かす学びの向上

施策目標

- 1 生涯学び、活躍できる環境の整備

4 施策体系

	基本目標	基本施策	取組項目	
生涯学び続けるひとづくり 先進教育のまち 府中の実現	I 府中市の特色を生かした学びの継承(発展)	1 地域・学校等間連携・協働による府中市教育の一体的発展	(1)小中一貫教育の質的向上・幼保小接続の更なる推進 (2)コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 (3)部活動改革の推進	
		2 郷土の歴史と伝統・文化の継承とひとやまの魅力向上	(1)備後国府跡の保存・活用事業の推進 (2)指定文化財等の価値の保護と魅力を活かした活用事業の展開 (3)地域文化財の総合的把握と文化財マスタープランの作成	
		II 誰一人取り残さず、全ての子供の可能性を引き出す学びの推進	1 安心・安全な学びの機会の保障	(1)いじめの未然防止・対策のための生徒指導体制の充実 (2)不登校児童生徒への支援の充実 (3)特別支援教育等の充実 (4)教育相談機能の充実 (5)防災教育の推進
			2 確かな学力の向上と幅広い知識・教養・職業実践力の育成	(1)個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 (2)言語能力を育成することば探究科の推進 (3)デジタル機器の効果的な活用 (4)キャリア教育の充実 (5)外国語教育の充実
	3 豊かな心と健やかな身体の育成		(1)体験活動の充実 (2)道徳教育の充実 (3)読書活動の充実 (4)学校体育の充実、運動・スポーツとの多様な関わり方の重視 (5)生活習慣の改善・食育の推進	
	4 教育環境の整備		(1)教師の指導力向上 (2)学校における働き方改革の更なる推進 (3)学校施設の整備	
	III 生涯を通じて共に学び支え合い、地域づくりに生かす学びの向上	1 生涯学び、活躍できる環境の整備	(1)多様な機関との連携による地域の教育力向上 (2)公民館等の機能強化・充実 (3)地域の学びに資する教育環境の整備 (4)関係機関との連携	

第4章 計画で取り組む施策

○基本目標Ⅰ 府中市の特色を生かした学びの継承（発展）

平成15年に府中市教育委員会が導入表明した小中一貫教育は、全国の黎明期にあたる状況下の中で翌16年度から試行実施期間に入り、平成17年策定「府中市義務教育改革フレッシュアップ計画マスタープラン」において「かかわりの中で育つ子どもたち」というコンセプトをもって府中市の教育計画を形成してきました。

その取り組み趣意は次の2点に集約でき、現在の教育施策に反映させています。

- ①教職員が、義務教育9年間を貫く小中一貫教育カリキュラムに基づいて授業を構成し、本時に獲得させたい知識は、その前段のどの学年の既習知識とつながり、本時以降のどの単元の基礎知識になるのかを見通した教材研究を行う。このことにより学びの連続性を明確にし、学び直しの機会も提供して学力向上を目指す。
- ②異年齢交流の場を設定して、「あこがれ」と「誇り」を児童生徒に醸成することで、将来への展望を持たせるとともに学校段階間の円滑な移行を促し、中1ギャップの解消を目指す。

平成29年度には、学校教育法の改正により法整備された「教育課程の特例告示」の適用を見通し、市内全校を義務教育学校及び併設型小中学校に移行することで、小中一貫教科の創設が可能となる学校教育体制を整えました。

時期を同じくして平成25年度から10年の時間をかけて、市内全学校に順次、学校運営協議会を設置し、学校、保護者、地域が「育てたい子供像」を共有し、三者が一体となって将来の地元の若者を育むことが可能となるコミュニティ・スクールの取り組みに着手してきました。

府中市では、小中一貫教育に象徴される「子供たちの成長の時間軸」にかかわる接続、コミュニティ・スクールに象徴される「子供たちの成長の空間軸」にかかわる連携を本市教育の強みとし、ここに幼保小接続、中高大連携、地域連携、産業界連携に視野と接点を広げ、学校の教育課程の一層の充実を図るとともに、学校教育から社会教育に続く多様な学びの場を設定し、生涯にわたる学びの機会を創りたいと考えています。

また、備後国府跡を始め、指定あるいは未指定文化財等である地域に伝えられ残されてきた歴史遺産や伝統文化、そして自然環境は、府中市固有の地域的特性であり、それらが持つ本質的な価値や魅力は、精神文化の根源として、現在の府中市に生まれ育ち、生活する人々の背景として大きな影響を与えています。

持続的な地域社会のあり方が問われている現代において、地域文化財に対する認識度や愛着度の向上につながる調査・研究事業の継続とともに普及啓発事業や整備事業を地域・学校と連携することで、将来にわたる地域文化財の保存・継承という課題解決に取り組めます。府中市固有の特色有る地域資源としての文化財の活用は、一層の重要性を増しており、観光やまちづくり事業関係部署との連携を推進します。

文化財保護（保存と活用）を通じて、自身の存在意義や背景を理解し、更には他者を

理解して存在を認めあえる豊かな学びの活動や地域人材育成に務め、郷土愛溢れた魅力ある地域づくりにつなげます。

基本施策1 地域・学校等間連携・協働による府中市教育の一体的発展

基本理念に基づき、中長期的見通しの中で、府中市の児童生徒に身に付けてもらいたい力として、次の3つを掲げます。

- (1) 現在の自分はどこにいるのか、地域の多様な関わりや学習調査への挑戦も踏まえて、自分自身の良さや解決課題を『自覚する力』。
- (2) 自分を成長させるために、挑戦したいことや没頭したいこと、獲得したいことや解決したいことを自分で考え、『選択する力』。
- (3) 自分の魅力やこれからの自分の展望、周囲との関わりについて、自分の考えを構成し、『表現する力』。

児童生徒が自分の意志によってこれらの力を手に入れられるよう、

- ・「自覚できる機会や場」、
- ・「選択できる機会や場」、
- ・「表現できる機会や場」、

を学校の教育課程や地域に形成し、現時点で予測される社会の課題や変化に対応したり、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出すことのできる児童生徒の育成を目指します。

取組項目(1) 小中一貫教育の質的向上・幼保小接続の推進

- 着実に児童生徒の資質・能力を高める小中一貫教育の展開
 - ・各学園の9年間のゴールを明確に見通したカリキュラムを作成し、実践します。
 - ・各教師の強みを生かすために、校種を越えた教科担任制を取り入れていきます。
 - ・小・中・義務教育学校で育成を目指す子供像を共有し、取組みを充実させるために、学園内研修を充実します。さらには、中高大連携、地域連携、産業界連携を推進し、教育課程の一層の充実を図ります。
- 組織的な幼保小連携教育の実現
 - ・参加対象者を拡大して、幼保小合同研修会を開催します。
 - ・小学校区での研修・交流活動を実施し、学びをつなぐための取組みの充実を図ります。
 - ・学びの円滑な接続を図るために、「架け橋カリキュラム」を作成し、随時改善します。
- 府中市小中一貫教育研究大会の開催
 - ・9年間の学びのつなぎ方を全ての教師で共有したり波及したりするために、4年間を1サイクルとし、毎年1学園ずつ研究大会を開催します。



取組項目(2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- 持続可能なコミュニティ・スクールの実現
 - ・CS連絡協議会を年2回実施し、互いの取組みの情報共有を深め、自校の学校運営協議会の活性化を図ります。
 - ・毎年、各学校運営協議会の取組みを検証し、成果・課題等を共有し改善を図ります。
- 地域学校協働活動の推進
 - ・地域コーディネーターの育成を図ります。
 - ・地域学校協働活動を充実させるために、地域住民、団体等とのネットワークの形成を図ります。



取組項目(3) 部活動改革の推進

- 部活動の段階的な地域移行
 - ・協議会を設置し、府中市の実態に応じた運動活動及び文化部活動環境の在り方を検討していきます。
 - ・コーディネーター等と連携を図り、子供たちが継続してスポーツ及び文化に親しむ機会を提供します。
- 人材バンクの充実、研修の充実
 - ・専門性の高い指導者の確保とともに、教育的配慮に留意した指導を行うための指導者研修を行っていきます。
- 地域情報や活動情報の発信
 - ・HPやSNS等を活用して、現状や活動の様子を積極的に情報発信します。

◆参考指標

指標名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
「学校が楽しい。」と肯定的に回答する児童生徒の割合	83.4	↗	85.0	90.0	↗	95.0

基本施策2 郷土の歴史と伝統・文化の継承とひとやまの魅力向上と継承

府中市の歴史的原点である国史跡備後国府跡を始めとする府中市固有の文化財の確実な保存・継承とともに、普及啓発や地域の魅力向上といった一体的な活用に取り組みます。郷土の歴史と伝統・文化が自分を構成する背景としての学びととらえ、地域の魅力を認識することで文化的で豊かな生活や地域社会の構築につなげる事業推進と環境整備を行います。

取組項目(1) 備後国府跡の保存・活用事業の推進

- 備後国府跡第1期（10年）の史跡公園整備の実施
 - ・ 史跡指定地の一部を史跡公園として整備します。
 - ・ 史跡公園と一体的なガイダンス施設（資料館等）の整備を推進します。
 - ・ 学びと文化的空間の形成と情報発信性を向上させます。
- 学校教育や地域との連携協力を推進します。
- 国庁域等の重要エリアの確認発掘調査の継続と研究による新たな価値を付加します。



はじまりの広場付近から見た備後国府
(画：早川和子)

取組項目(2) 指定文化財等の価値の保護と魅力を活かした活用事業の展開

- 恋しき・翁座の保存活用事業の実施
 - ・ 保存活用計画に基づく適切な価値の保護と普及啓発事業の実施をします。
 - ・ 魅力的な観光・まちづくり事業推進と連携します。
- 旧芦品郡役所庁舎の移築活用の具体化
 - ・ 移築後の用途等の具体化と資料館機能の整理をします。
- 指定文化財等の保存・継承
 - ・ 保存修復及びそれに資する調査の実施をします。
 - ・ 文化財所有者への支援を強化します。
 - ・ 価値と魅力向上につながる事業展開と情報発信をします。



府中市指定重要文化財旧芦品郡役所庁

取組項目(3) 地域文化財の総合的把握と文化財マスタープランの作成

- 市域の各種文化財悉皆調査の実施
 - ・ 地域的特性や価値の総合的な把握と保護を推進します。
 - ・ 新たな観点による地域資源としての活用と魅力創出に向けた取組みを行います。
- 府中市文化財マスタープランとなる地域計画の策定と国の認定
 - ・ 登録文化財制度を確立します。
 - ・ 文化財保存活用支援団体を指定します。



◆参考指標

指標名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
第1期史跡整備の前期事業(ツジ地区)	事業の方針決定 国・県・内部調整		基本設計	実施設計	公園整備 後期(~R14)事業準備	
前期事業進捗率 (%)	50.0	—	70.0	80.0	90.0	100.0

○基本目標Ⅱ 誰一人取り残さず、全ての子供の可能性を引き出す学びの推進

子供たちが自律した学び手となり、自ら獲得した力で未来に挑戦し、多様な他者と協働して新たな価値を創造するための「学力」及び「学びに向かう意欲」の向上を図り、学力向上を通じた未来を拓く力を育てます。

また、一人一人の多様性やよさを認め合い、他者を思いやることができる環境を整備することで、お互いを高め合い、個々の可能性を引き出す学びにつなげるとともに、自己実現に向けて主体的に行動できる力を育てます。

基本施策1 安心・安全な学びの機会の保障

誰一人取り残さず、相互に多様性を認め、高め合う教育環境を整備することで、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する教育を実現します。

取組項目(1) いじめの未然防止・対策のための生徒指導体制の充実

- 早期発見・適切な初期対応に向けた研修の充実
 - ・いじめに関する管理職研修や生徒指導主事研修の充実を図ります。
 - ・指導者を派遣し、校内研修の充実を図ります。
- いじめの解消・解決に向けた組織的な取組みの強化
 - ・校内組織体制の構築を図るとともに、関係機関との連携体制の充実を図ります。

取組項目(2) 不登校児童生徒への支援の充実

- 府中市生徒指導支援チームによる組織的な対応の充実
 - ・生徒指導支援チーム会議を定期的で開催し、学校、関係機関で情報を共有します。
 - ・子供たちの抱える課題の解決に向けた予防的支援を含めたセーフティネットを充実します。
- 府中市教育支援センター等、学校内外における居場所づくりの充実
 - ・学校になじめない子供の個性や特性を踏まえた個に応じた学び方で能力を最大限発揮できるよう支援体制の充実を図り、子供の自律につなげていきます。
 - ・学校と府中市教育支援センターとの連携、また校内教育支援センターとの連携により、充実した学習支援を行います。

取組項目(3) 特別支援教育等の充実

- 教師の専門性の向上
 - ・障害のある児童生徒の自立や社会参加を図り、一人一人の教育的ニーズや特性に応じた適切な指導と必要な支援を行うとともに、いま現在の学びを満喫でき、

充実できる取組や環境整備等を行います。

そのため、通常学級、通級指導、特別支援学級における多様で連続性のある学びの指導・支援を行うとともに、県立特別支援学校の専門性と連携を図りながら、特別支援教育の具体に係る研修会を開催し、指導の充実を図ります。

- 体制整備
 - ・医療的ケア看護職員の配置を促進し、医療的ケアが必要な児童・生徒が安全・安心に学校で学ぶことができる環境の充実に努めます。
 - ・病気療養児の教育支援のため、ICTを活用した遠隔教育を推進します。

取組項目(4) 教育相談機能の充実

- 生徒指導支援チームを中心にアウトリーチ型の取組を行います。
 - ・複雑かつ多様な生徒指導上の諸課題に対して、チームの専門性をいかし、学校と協働して、児童生徒を取りまく課題の解決、及び児童生徒が安心して教育を受けることができる場の確保につなげる取組を行います。
- ICT端末を活用した教育相談体制の拡充
 - ・SOSの出し方に関する教育の充実を図ります。
 - ・悩みを抱え込まずに誰かに伝え、解決に結び付けられるよう、相談の選択肢を広げるため、匿名相談アプリを導入し、児童生徒一人一人の悩みごとの解決につなげます。
- 教職員の研修の充実
 - ・各校で教育相談週間を設定し、児童生徒との個人面談を実施します。

取組項目(5) 防災教育の推進

- 地域や関係機関と連携した防災教育の実施
 - ・災害時避難マニュアルを作成し、成果・課題を学校、家庭、地域の方々と共有し、定期的に避難訓練を実施します。



◆参考指標

指標名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
「困りごとや不安がある時に、相談することができる。」と肯定的に回答する児童生徒の割合	実績値 なし	85.0	↗	90.0	↗	100.0
「学校は安心・安全な場所である。」と肯定的に回答する児童生徒の割合	実績値 なし	85.0	↗	90.0	↗	95.0

基本施策2 確かな学力と幅広い知識と教養・職業実践力の育成

全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るために、1人1台端末を円滑に活用した学習指導を実践します。また、エビデンスに基づいた教育指導・評価研究を基にした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、新しい時代に求められる教育を実践します。

取組項目(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

- 個別最適な学びの充実
 - ・個々の興味・関心・意欲等を踏まえて、きめ細かく指導・支援するなど、一人一台端末等を活用した学習活動を充実します。
 - ・府中市独自学力調査等の教育データを蓄積・分析するための制度を整え、個々の学力に応じた手立てを講じていきます。
 - ・児童生徒が自ら選択して「学力」及び「学びに向かう意欲」等を獲得し、自己実現を支援する放課後学習・放課後活動の場を充実させます。
- 協働的な学びの充実
 - ・地域や企業と連携・協働した探究的な学習や体験活動（自然体験活動、社会体験活動、文化芸術活動等）の充実を図るとともに、これらを通じて、子供同士や多様な他者と協働しながら行う学びを促進します。

取組項目(2) 言語能力を育成することば探究科の推進

- ことば探究科推進協議会の充実
 - ・ことば探究科を推進するリーダーを各校に育成します。
- ことば探究科の授業公開等の実施
 - ・ことば探究科の授業改善を図り、他教科との往還を促し、全ての教科の授業力向上を図ります。

取組項目(3) デジタル機器の効果的な活用（GIGA スクール構想）

- デジタル機器の効果的な活用
 - ・子供たちの多様な思考表現等を即時に可視化・共有化し、提示・整理・分析・議論できること及びデジタル教科書の効果的な活用による「主体的・対話的で深い学び」を実現します。
 - ・遠隔教育の充実など地理的限界を克服した学びの充実を図ります。
 - ・プログラミング教育を核とした情報活用能力の一層の育成を図るとともに、学校生活の様々な場面で活用できるコンテンツの充実を図ります。
- 教職員のICT活用指導力の向上
 - ・ICT支援員の活用に加えて、Chromebook サポート講座を随時開催し、授業や家庭学習、情報モラルなど様々な面での指導力を向上させます。

- 授業等の取組みの具体や啓発の発信
 - ・ 課題や目標、取組みの具体について、家庭と共有し、学校と家庭が一体となって取組みを進めます。

取組項目(4) キャリア教育の充実

- キャリア体験学習の充実
 - ・ 事前・事後学習を充実させ、体験を通して学んだことからアイディア等を見出し、事業所の方へ提案します。
- 地域・産業界等を巻き込んだキャリア教育の推進
 - ・ 課題や目標、取組みの具体について、家庭・地域と共有し、企業とも連携したキャリア教育を進めます。



取組項目(5) 外国語教育の充実

- 小中連携の充実
 - ・ 9年間を見据えた外国語活動及び外国語科の系統あるカリキュラムを作成し、学びの連続性を意識した授業づくり推進します。
- コミュニケーション能力等の育成
 - ・ 市内全校にALT（外国語指導助手）を配置し、外国語教育の充実による英語力向上を図るとともに、学校生活のあらゆる場面を通じてコミュニケーション能力の育成を進めるとともに、主体性や積極性、異なる文化を理解し尊重する態度を養います。

◆参考指標

指標名	対象	実績値		R6			R9	
		全国平均との差 (ポイント)	R5	全国平均との差 (ポイント)	R7	R8	全国平均との差 (ポイント)	
全国学力 ・学習状 況調査	小6国語	-0.6	↑	プラス3	↑	↑	プラス5	
	小6算数	-0.2	↑	プラス3	↑	↑	プラス5	
	小6理科	-0.3		プラス3		↑		
	中3国語	-1.0	↑	プラス3	↑	↑	プラス5	
	中3数学	-2.4	↑	プラス3	↑	↑	プラス5	
	中3理科	-1.3		プラス3		↑		
	中3英語		↑		↑		プラス5	

基本施策3 豊かな心と健やかな身体の育成

コロナ禍による生活様式の変化、体験活動の減少を始め、規範意識や人間関係の希薄化、問題行動の多発等、子供たちをめぐる様々な課題に対応するために、道徳教育やスポーツ活動の充実、生活習慣の改善、豊かな感性を育む読書活動の推進に取り組み、子供たちが生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成を図ります。

取組項目(1) 体験活動の充実

○家庭や地域社会との連携

- ・子供たちに豊かな人間性や社会性を育むために、自然や社会に接し、生きること、働くことの尊さ等を実感させる機会を設け、学校・家庭・地域がそれぞれの役割において体験活動の充実を図ります。
- ・家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動等の豊かな体験活動を積極的に取り入れます。

取組項目(2) 道徳教育の充実

○ 府中市道徳教育推進協議会の充実

- ・道徳教育推進教師が中心となり、授業研修を行い、道徳科の授業改善を進めていきます。
- ・各校での実践を共有し、好事例を波及させます。

○ 学校・家庭・地域で創る道徳科の授業

- ・保護者・地域とともに道徳教育を進めるために、道徳科の授業を公開します。
- ・道徳科の授業への保護者や地域の方の参画を進めます。

取組項目(3) 読書活動の充実

○ 府中市「子ども司書」養成講座の実施

- ・府中市立図書館と連携し、講座を開講します。
- ・「子ども司書」が講座で学んだことを各校での読書推進活動に生かせるようにします。
- ・子供の読書に対する興味・関心を高めます。

○ 学校図書館職員の活用

- ・全校に学校図書館職員を配置します。
- ・学校図書館の環境整備を行い、機能を更に充実します。

○ 学校図書館職員の研修

- ・府中市立図書館と連携し、魅力ある学校図書館づくりに向けた研修を行います。

○ コンクール応募等の奨励

- ・各種団体が実施する読書感想文コンクールや図書館を使った「調べる学習コンクール」等への応募を奨励します。



取組項目(4) 学校体育の充実、運動・スポーツとの多様な関わり方の重視

- 体力テストの結果の活用
 - ・広島県の「学校での体力づくりのためのマネジメントサイクル」に基づき、実態に応じた目標を設定するとともに、活動の計画や方法を修正・改善しながら取組みを推進します。
- 体育・保健体育科授業での体力づくり
 - ・「体づくり運動」の授業において、運動の楽しさや心地よさ、動きの高まりを実感できるような学習内容を実施し、結果として体力が高まるよう工夫します。
 - ・教師対象の実技研修会を開催し、指導方法の周知を図ります。
- 外遊びの奨励
 - ・「遊びは学び」の重要性を広め、始業前や昼休み、放課後等に、体を動かす時間を確保し、運動能力とともに、知性、社会性も高めていきます。

取組項目(5) 生活習慣の改善・食育の推進

- メディアの使用に関する啓発活動
 - ・学級活動、道徳、体育・保健体育等の授業及び児童生徒会活動において、児童生徒が自己の生活習慣について主体的に考え、実践できるように取組みを進めます。
 - ・課題や目標、取組みの具体について、家庭と共有し、学校と家庭が一体となって取組みを進めます。
- 食育の推進
 - ・家庭における食育を推進するために、給食だより等を発刊し、保護者へのアンケートを通して、家庭での声の集約に努めます。
 - ・学校における食育の指導強化を図るために、栽培や収穫体験（学校と農家の交流）を計画的に実施します。
 - ・学校給食における、地産地消率の向上のために、県内産品の使用については、学校給食納入業者選定段階から協力を求めています。
 - ・地元JAと連携し、農家の品目ごとの収穫量のデータを取り、給食への食材の安定供給を図ります。
 - ・地産地消による食教育の効果を広めるために、給食試食会や家庭向け通信を発行します。

◆参考指標

指標名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
「自分にはいいところがあると思う。」と肯定的に回答する児童生徒の割合	実績値 なし	80%	85%	90%	95%	100%
「勉強やスポーツ、習いごと趣味等で今ががんばっていることがあります。」と肯定的に回答する児童生徒の割合	実績値 なし	80%	85%	90%	95%	100%
「学校の行事や活動の中で、心に残っていることがある。」と回答する児童生徒の割合	実績値 なし	80%	85%	90%	95%	100%

※i-check（児童生徒総合質問紙調査結果より）

基本施策4 教育環境の整備

教育環境の整備は全ての教育活動の土台となるものであり、これを充実することで、様々な施策を効果的に展開し、市民の可能性を引き出す魅力ある学びを実現させていきます。教職員一人一人の能力を伸ばすために、教職員の研修及び人材育成を一体的に進め多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を推進します。また、教職員が教職員でなければできないことに注力できるよう、働き方改革の取組みを更に推進します。

取組項目(1) 教師の指導力向上

- 授業改善研修の充実
 - ・ 様々な研修の機会を通じて、教職員の交流を積極的に図り、組織的に授業改善に努めます。



取組項目(2) 学校における働き方改革の更なる推進

- 学びのセーフティネットの構築
 - ・ 様々な課題等に対応するための専門スタッフを配置し、教職員の負担を軽減します。
 - ・ 児童生徒の情報を統合的に管理する校務支援システムを活用や校務のDX化を進め、教職員の負担軽減に努めます。

- 学校における組織マネジメントの確立
 - ・出退勤記録システムにより、教職員の在校等時間を把握し、適正な勤務時間管理を行います。
 - ・一部の教職員に業務が集中しないよう、業務の平準化・効率化を図ります。
- 今後の展望
 - ・令和2年に制定した「府中市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則教師の勤務時間の上限等を定める指針」を踏まえ、教職員の在校等時間の客観的な把握の実施を徹底するとともに、P D C Aサイクルの構築などを通じた業務改善の取組みを一層促進させます。

取組項目(3) 学校施設の整備

- 学校施設の整備改修
 - ・学校に「未来の学び」を創出するための「計画的な機能向上」という視点に位置付けて学校施設の整備改修を進めます。
 - ・特別教室等に空調を設置することで、安全安心で最新な学びの環境に整えます。また、施設改修を通じて、子供、保護者、地域の学校教育への愛着を醸成します。

◆参考指標

指標名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
「子供と向き合う時間が確保できていると感じる教師」の割合	67.6%	70%	↗	75%	↗	80%
「日々の業務の中で充実感を得られています。」肯定的回答の割合	83.7%	85%	↗	90%	↗	95%

※学校における働き方改革アンケート調査結果より

基本目標Ⅲ 生涯を通じて共に学び支え合い、地域づくりに生かす学びの向上

公民館や図書館といった社会教育施設は、地域のコミュニティの拠点施設として、また、知識の宝庫として、私たちの生活のすぐ近くに存在しています。この社会教育施設を活用して、情報や人々の声を地域の隅々まで届けることが必要と考えています。

府中市の学校教育は、「小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール（CS）」を核として実践しています。ここに、地域にある公民館の「つどう・まなぶ・つなぐ」という機能を加え、学びの「可能性」と「チャンス」を広げ、地域の教育力を向上させていきます。

そして、いつでもどこでも学べる社会教育の環境づくりを目指します。

また、社会教育施設に整備したインターネット環境の活用を通して公民館活動を促進するよう取り組み、会議アプリを活用し、公民館で行っている講座を複数の公民館と共有することで社会教育の機会を増やしたり、公民館長の協議・連携を実施したりするなど、活動の幅を広げています。

公民館が地域とのコーディネーターとなり、学校と地域との通訳として、社会全体で子供たちを教育することが出来るよう、地域の人材が活躍でき、様々な場所で学び合う姿を創出していきます。

こうした地域学校協働活動と府中市が長い時間をかけて作り上げてきたCSとが一体的に機能することで、相乗効果が期待できると考えています。

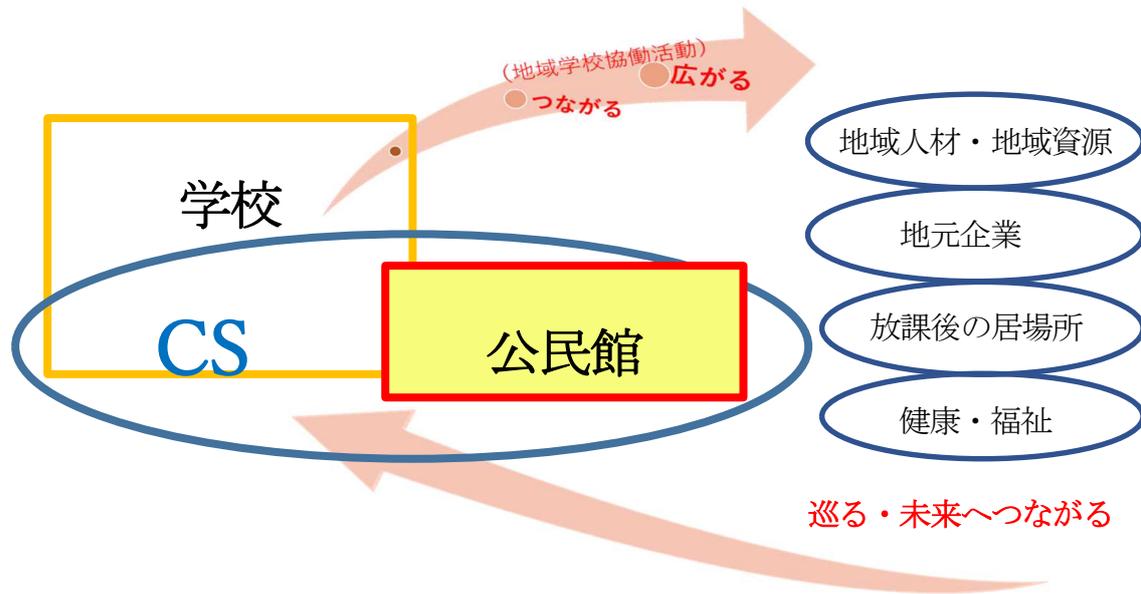
まちづくりにもつながる、「可能性」と「チャンス」が広がるものとして、地域ニーズに応じつつ、市の施策や市民生活に必要な情報・手段を、地域の隅々にまで届ける、まさに「地域のコミュニティの拠点施設」として機能する公民館を目指します。

そして、多くの人々が、世代を超えて学びあい、成果を実感することで、学び続ける力を育み、多様な他者と関わることでつながり、学んだことを地域・社会へ生かすことができるよう、地域住民がつながる場として学習機会の充実、コーディネート力の強化、地域や活動情報の発信に取り組みます。

基本施策1 生涯学び、活躍できる環境の整備

公民館に限らず、たくさんの自主的・自発的な学びである社会教育・生涯学習活動が展開されています。子育ての不安に向き合うことで自身の納得と同じ立場の人との共感を得ることのできる家庭教育支援「親プロ」や、私たちの知的欲求を満たす情報の宝庫である図書館・電子図書館など、たくさんの学びのツールを活用し、つなげることにより、多くの学びを提供します。学びの参加者から支援者へ、更には指導者や提供する側へのステップアップを図ることができるよう、楽しみと喜びをもち合わせた地域人材の育成に努めます。

◆協働的なまちづくりに呼応する公民館活動



取組項目(1) 多様な機関との連携による地域の教育力向上

- 公民館による地域のコーディネート
 - ・公民館が地域のコーディネーターとなり、地域全体で子供たちの教育に参画し、そのプロセスで地域人材を育成します。
- 地域学校協働活動の推進
 - ・学校教育との接点を強化し、公民館が持つ地域住民による協働活動の拠点機能を高めます。

取組項目(2) 公民館等の機能強化・充実

- 人づくり
 - ・自主的・自発的な学びによる知的欲求の充実により、自己実現・成長を図ります。
 - ・公民館等の連携・協力による学習機会の提供、支援を行います。
 - ・新しい取組みへのチャレンジをし続けることにより、参加者から支援者、支援者から提供者・指導的立場となるような人づくりを進めます。
- つながりづくり
 - ・住民相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化を図ります。
 - ・CSに参画することにより、地域学校協働活動へつながる体制を整備します。
 - ・学びフェスタで得た「つながり」を各公民館活動へも生かし、地域へ広げ、循環させます。
- 地域づくり
 - ・学びを通じた地域課題解決や地域活性化につなげる活動を促進させます。



取組項目(3) 地域の学びに資する教育環境の整備

- 地域の拠点施設としての公民館の維持管理
 - ・多様な世代が利用しやすい環境を整えるため、施設利用の利便性の向上を図ります。
- ICTの活用による学びの広がり、多様化
 - ・社会教育施設に整備したインターネット環境を活用し、いつでも誰でも情報が得られるとともに多様な住民が、学び合える学習機会の創出、充実に取り組みます。

◆参考指標

指標名	現状値	R5	R6	R7	R8	R9
公民館利用者数 (人)	19.2万	20万	↗	21.5万	↗	23.2万
講座参加者数 (人)	1,326	1,500	↗	1,900	↗	2,500

取組項目(4) 関係機関との連携

- 地域の資源である企業、スポーツ・文化団体、福祉機関等との連携
 - ・子供たちの体験活動の機会提供やICT教育支援を行う企業、部活動を支える地域のスポーツ及び文化芸術団体など、学校外の多様な担い手と学校との連携・協働を推進します。

参 考 資 料

1 策定の経過

年月日	協議内容
令和4年 7月12日	教育委員会内部協議
令和4年10月 5日	教育委員会内部協議
令和4年11月24日	教育委員会会議 教育振興基本計画の進捗状況など
令和4年12月14日	教育委員会調整会議
令和4年12月19日	各担当部長間協議
令和4年12月23日	教育委員会調整会議
令和5年 1月26日	教育委員会会議 教育振興基本計画の骨子案全体
令和5年 2月16日	教育委員会会議 教育振興基本計画の骨子案

2 用語解説

用語	説明
【あ行】	
I C T	Internet and Communication Technology の略称。情報通信技術の総称。
I o T	Internet of Things の略称。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより、相互に制御する仕組みのこと。
S D G s	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2015年の国連サミットにおいて採択されたもので、貧困や飢餓、さらには気候変動や平和など広範な分野にわたって17の目標が設定されている。
親プロ	「親の力」を学びあう学習プログラム活用推進事業
【か行】	
架け橋カリキュラム	子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい 主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤 を育めるようにすることを目指すもの。架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したものであり、関係者の負担軽減に留意しつつ、各地域や施設の創意工夫を生かした取組みが広がり深まっていくことをねらう。 架け橋期＝5歳児から小学校1年生の2年間

キャリア教育	社会の激しい変化に流されることなく、柔軟かつたくましく対応し、自立していけるよう必要な知識や技術を主体的に身につけていく活動
G I G Aスクール	Global and Innovation Gateway for All Society 5.0 時代にいる子供たちの未来を見据え、義務教育課程に1人1台の端末を校内無線LANを一体的に整備することで、誰一人とりこぼすことのない公正に個別最適化された学びを持続的に実現していこうとする取組み。
グローバル化	政治・経済、文化などさまざまな側面において、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。
子ども司書	本が好きで読書に興味や関心の高い子供たちを中心に司書についてのノウハウを習得し、友達や家族に読書の素晴らしさや大切さを伝えるリーダーとなることを目指します。子ども司書に認定された子供たちは、図書館で読み語りのボランティアを行ったり、学校図書館では、図書委員のリーダーとして活動したり、本の整理、分類等子ども司書として活動する。
個別最適な学び	児童生徒一人一人に応じた多様な学びの選択肢の提供ときめ細かい指導・支援を通して、児童生徒が自らの学びを最適化することを促す取組み
コミュニティ・スクール(CS)	学校と保護者、地域住民等が目標を共有し、一体となって地域の子供たちを育てていく取組み。子供たちの育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てることにもつながる。
【さ行】	
社会に開かれた教育課程	学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、地域と連携・協働しながら、これからの社会を創り出していく子供たちの資質・能力を育む教育課程のこと。
主体的・対話的で深い学び	子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになるための授業改善の視点。
人生100年時代	寿命が100歳前後まで今後伸びていくことが想定される中、現在の「教育」、「仕事」、「引退」という3つのステージが大きく変わっていく可能性があることを提示した言葉。

スマイルルーム	市内の小中学校に在籍している不登校児童生徒等の社会的自立や学校復帰を支援するために開設した場所。専門的な知識をもった教育相談員が相談等に応じ、指導員が児童生徒の指導にあたるG v。
【た行】	
地域学校協働活動	持続可能な地域社会をつくるために、共に子供たちを育て、共に地域を創るという理念に立ち、地域と学校がパートナーとして、未来を担う子供たちの成長を社会全体で支えていく様々な活動。
デジタルトランスフォーメーション (DX)	「デジタルによる変革」を意味し、ICTの進化に伴い、デジタルデータ、デジタル技術を使い新たなサービスやビジネスモデルを展開することで社会そのものの変革につなげる施策を総称したもの。
【ま行】	
学びのセーフティネット	誰もが、未来に希望を持ち、自らの「可能性」と「チャンス」を最大限に生かすことができるよう、乳幼児期や義務教育段階初期からのきめ細かく支援等を通じて、家庭の経済状況や地理的条件に左右されない支援する制度や仕組みのこと。
【や行】	
幼保小連携	子供たちの育ちと学びを切れ目なく続けるため、学校への円滑な接続がなされるよう、日々の教育・保育内容を連携して取り組むこと。